

静私・ふ・なだより



- 定時総会・理事長抱負
- 新執行体制/常設委員長の抱負
- 園外保育と安全管理/日向崇紹
- 特集「今、改めて砂場を捉え直す(その2)」箕輪潤子
- コミュニティ(保育の窓)
- 認定こども園訪問(羽鳥るり幼稚園)
- もの想い(吉原聖母幼稚園・焼津豊田幼稚園)
- 街ぶらり(富士宮市)
- 健康随想/吉野友勝



NO.183
2018 **7**
Summer

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会の第66回定時総会が、5月28日(月)ホテルセンチュリー静岡で101名の社員が出席し、静岡県文化・観光部長渡邊眞一郎様、同総合教育局長長澤由哉様、同私学振興課長田中真生様をお迎えして盛大に開催されました。

総会は千葉一道理事長の挨拶から始まりまして。

続いて、教育振興に多大な功績を残されている方々への表彰が行われました。静岡県文化・観光部長渡邊眞一郎様から私立学校教育振興功労知事表彰が、また千葉理事長からは理事長・設置者・園長永年勤続表彰が授与されました。受賞者の方々の功績に対して会場の皆様から盛大な拍手が送られました。

次に千葉理事長が議長となり、議事が進行され第1号議案「平成29年度事業報告及び財務状況報告」及び第2号議案「定款の一部変更」、第3号議案「役員の選任」が原案通り可決されました。

また報告事項として一園の退会についての報告がなされました。

■千葉一道理事長の挨拶

おはようございます。先日東京私学会館におきまして、全日本私立幼稚園連合会定時総会が、文部科学大臣林芳正様、自由民主党幼児教育議員連盟会長中曽根弘文様、はじめ国会議員の先生方にご臨席賜り開催されました。議員の先生方から私立幼稚園における幼児教育に一層期待をされ「幼児教育振興法案」は新たに審議されることになったが、今国会中に法案成立を目指す旨の話がありました。私立幼稚園としては、早期の成立を願うものであります。

本年4月から「幼稚園教育要領」や「幼保連携型認定こども園・保育要領」が改訂されました。私立幼稚園及び認定こども園ではそれぞれの機能を生かし、これからの子どもたちの育成に取り組んでいただき、更なる教育・保育の質の向上にご尽力いただきたくお願いいたします。

私たちには政府の幼児教育無償化の対応、2歳児の受入対応、教職員の確保、幼稚園の永続性を担保できる財政の確立など課題が山

積しています。

昨日の静岡新聞に掲載された「保育士の将来を支える」という記事お読みになった方いらっしゃるでしょうか？私は私立幼稚園としての危機を感じました。

静岡県は独自で、保育士の環境整備のため処遇を改善し保育士リーダーを育成するため研修体系を強化していくようであります。

本協会は、幼児教育の専門性を培うため既に協会設立時に静岡県教育委員会の認可を受けて教員研修がはじまり、昭和36年から60年に亘る実績があります。この、永年に亘る実績は静岡県の幼児教育に大いなる貢献をしております。本日ご臨席のご来賓の先生方は、私立幼稚園にご理解の深いことは存じていますが、この点をよくご確認いただき、私学助成の私立幼稚園教職員の処遇改善を早急に図っていただきますようお願いいたします。

また、あらためまして県担当部局にお伺いさせていただきたく存じます。

幼児教育は人間形成において最も大切な時期であり高等教育に繋がる原点であります。各園がそれぞれの特色ある教育に専念し、子どもたちの最善の利益のため教育・保育に真摯に関わっていただき、多文化共生時代と言われる今日を生き抜く意志と能力を育み、一層の幼児教育の質を高めていただきますようお願いいたします。

また、本年は東海北陸地区教育研究大会が静岡市で開催されます。ご案内をいたしましたところ予定以上の先生方にご参加いただきますことに感謝申し上げます。会員園の皆さまにおかれまして、今研究大会が充実した研修になりますようご協力をお願いいたします。ご来賓の先生方に失礼な発言がありましたらご容赦いただきたく存じます。

本協会が子どもの利益のために活動できますようご来賓の先生方、会員園の皆様のご協力をお願いしご挨拶と致します。

■川勝平太静岡県知事の祝辞

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会第66回定時総会の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。

本日、多数の皆様の御出席のもと、このように盛大に総会が開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

本県の私立幼稚園教育の振興につきまして、日頃より、静岡県私立幼稚園振興協会の役員の皆様をはじめ、関係の皆様方に多大なる御尽力をいただき、この場を借りて改めて厚くお礼申し上げます。

また、永年にわたる私立幼稚園教育の発展に対する御尽力及びその御功績により、本日栄えある表彰を受けられました皆様方には、深く敬意を表しますとともに、心からお祝い申し上げます。

さて、我が国は本格的な人口減少時代を迎えております。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、本県の人口は2007年をピークに減少を続け、現状の傾向が継続する場合、2060年には239万人になるとされており、現在よりも100万人以上減少することになります。特に本県は、転出超過人口が全国でも上位となっており、10代、20代の若い世代、女性の転出が顕著でありますことから、地域の魅力を高め、若者の地元への定着率を高めることが大きな課題であると考えております。

このような中、本県では今年3月、新たな総合計画として、人口減少などの課題を克服し、誰もが努力すれば人生の夢を実現でき、幸せを実感できる地域を目指す「静岡県の新ビジョン 富国・有徳の美しい『ふじのくに』の人づくり・富づくり」を策定いたしました。また、「人づくり」の柱となる教育の基本理念や今後取り組む具体的な施策をまとめた、新たな「ふじのくに『有徳の人』づくり大綱」と「静岡県教育振興基本計画」を策定し、自主性、独自性を活かした魅力ある幼稚園や認定こども園づくりへの支援などを通じて、幼児教育の充実を図ることとしております。

あらためて申し上げるまでもなく、幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培い、その後の学びと資質・能力の向上に寄与する

ものであり、富国・有徳の「美しい『ふじのくに』」の未来を担う「有徳の人」の育成を進めていくうえで、非常に重要であります。

子ども・子育て支援新制度が施行されてから3年が経過し、幼稚園、認定こども園と運営形態は様々になりましたが、皆様の建学の精神に沿ったそれぞれの教育方針に基づき、引き続き、私学ならではの特色ある教育を実践されますとともに、県民の多様なニーズに幅広く応えていただきますようお願い申し上げます。

県といたしまして、皆様がこれまで以上に質の高い教育を提供できるよう、引き続き、私学教育の振興に努めてまいります。

結びに当たり、一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会並びに各私立幼稚園の益々の御発展と、御出席の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。平成30年5月28日 静岡県知事 川勝平太

■平成30年度

私立学校教育振興功労知事表彰受賞者

(50音順)

学校法人青山学園理事長 青山文碩

すすき幼稚園園長 伊村知義

藤枝東幼稚園園長 上藤法光

学校法人光輝学園理事長 堀野ひかり幼稚園園長 月野幸子

学校法人のびのび園 月野幸子

のびのび幼稚園園長 森俊彦

河輪幼稚園園長 森俊彦

永年勤続表彰受賞者(理事長・設置者、園長)

●勤続50年以上 学校法人静岡聖母学園 磐田聖了ア幼稚園園長 佐藤富美

●勤続40年以上 学校法人静岡聖母学園 静岡聖母幼稚園園長 下村紀美子

●勤続30年以上 学校法人無愛樹学園 百花幼稚園園長 金田信司

●勤続20年以上 学校法人浜松養子園 平成幼稚園園長 菅原由美

●勤続10年以上 学校法人静岡聖母学園 沼津聖了ア幼稚園園長 山本喜栄

学校法人春日学園理事長 堀内國夫



幼児教育無償化に

対応できる組織づくり…

(社)静岡県私立幼稚園振興協会

理事長

千葉 一道 いち どう



平成28年度・29年度は不肖未熟者が理事長の席を汚し、副理事長先生はじめ理事、地区長、事務局の皆さまに支えられ無事二年間務めることができました。また、協会園の皆さまにはご協力を賜りましたことをお礼申し上げます。

また、平成30年度から引き続き同職をお受けすることになり、身の引き締まる思いであります。

平成30年度は、東海北陸地区教育研究大会が本県の担当で静岡市内で開催されます。本大会は8年に1度本県が担当する重要な教育研究大会であります。本協会園の皆さまには募集を上回るお申込をいただき幼児教育に対する熱意が伝わってまいりました。是非とも、皆さまのお力添えをいただき有意義な研究大会が開催され、更なる幼児教育の発展に繋がることを望みます。

平成30年度を迎え、本協会園235園

中約3割の園が「認定こども園」や「施設型給付幼稚園」に移行し、新たな幼児教育と保育支援がはじまりました。また本年度は幼稚園教育要領が改訂され、益々幼児教育の重要性が問われる時代になってまいりました。

本振興協会は昭和45年、社団法人静岡県学校法人幼稚園振興会と静岡県私立幼稚園協会を一本化して静岡県教育委員会の認可をいただき社団法人静岡県私立幼稚園振興協会を設立いたしました。同時に幼稚園教育の充実を図り研修委員会を立ち上げ、幼児教育の振興と教員研修が始まりました。

私たちは、先人がご苦労して築き上げた幼児教育の基盤をしつかり継承していく責任があります。幼児期の教育は生涯の基礎を築く大切な時期であります。私学には「建学の精神」があり、それぞれの園において独自性を生かした幼児教育を提供されて

いるものと思います。どの園におかれましても、子どもの利益のために、更なる教員研修を深めていただき、静岡県の幼児教育に寄与していただきますことを希望いたします。

政府は、平成29年12月8日「新しい経済政策パッケージ」を閣議決定しました。この中で「幼児教育の無償化」を実施する方針が示されています。幼児教育の無償化については、全日本私立幼稚園連合会が①保護者負担の大幅な軽減による豊かな家庭環境づくり②少子化対策③幼児教育の質の更なる向上等に資するものとして保護者の署名を得て主張してきたものであります。政府は2019年10月から消費税10%増税に合わせ「幼児教育・保育の無償化」を当初予定を前倒しして全年齢で実施することを決定しました。幼児教育無償化が進んできますと、私学助成園とこども園、保育園の受入状況が変

化し、格差が生じることが懸念されます。

幼児教育無償化は、授業料の全てが無償化されるのではなく、公定価格の上限額が支給される予定です。私立幼稚園の保育料は格差があり、無償化額を上回る保育料を設定している園では差額が保護者負担になります。いずれにしましても、幼児教育無償化が実現することによりさまざまな課題が生じることが考えられます。

私たち静岡県私立幼稚園振興協会は、あくまでも子どもの幸せな育ちを願い、その最善の利益を目的とした制度設計・運用が図られるべきであること、預かり保育や家庭での子育ても含め公平性の観点から対応が図られるべきであると考えます。今後、①幼稚園における2歳児受入②一時預かり事業(幼稚園型)③預かり保育の長時間化など、政府は子育て安心プランの検討をしています。協会園には最新情報をできる限り迅速に提供できるよう心掛けて参りますので、本協会の運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年度

三役・常置委員長・地区長のご紹介

●三役

理事長 千葉一道 八坂

副理事長 森 俊彦 河輪

田中邦昌 みのもる

宮下友美恵 静岡豊田

小林直樹 富士中央

●顧問

顧問 相田芳久 焼津豊田

●常置委員長

企画委員長 吉田智昭 万野

研修委員長 相田早苗 焼津

広報委員長 杉山京子 静岡平和

経営委員長 武藤啓史 高洲

地域向上委員長 島津寿一 浜松葵

●地区長

駿豆 篠木喜世 桜ヶ丘

沼津 鶴谷圭一 原町

富士 今村雄一郎 富士ふたば

富士宮 渡邊太郎 富士宮東

清水 高塚匡宏 清水白百合

静岡 宮下友美恵 静岡豊田

焼津 相田芳久 焼津豊田

藤枝 稲葉俊英 こばと

島田・榛南 増田立義 川崎

遠州 小澤直明 くるみ

浜松 荒巻太枝子 早出

委員長抱負を語る

企画委員会

委員長

吉田智昭



今期から企画委員会を担当させて頂くことになりました。教育大学卒業から9年間県東部の公立教員として勤め、私立幼稚園に勤めて19年目になります。振り返りますと、御縁があり研修委員を6期とその間に「自己点検自己評価プロジェクト」を初めとする様々な今日の課題に対してプロジェクトに委員として参加させていただく中、県民幼のために御尽力されている先生方との出会いや貴重な学びを経て今の自分があることに感謝し、頂いた御恩を少しでもお返しできればと、浅学菲才の身ではありますが委員長という大役の機会を頂いたことに感謝申し上げます。また、委員会運営につきましては、理事長先生・副理事長先生・委員の皆様のお力添えをいただきながら、私立幼稚園の今日的課題の検討や研究及び対応、研修会の企画実施に努めて、皆様方のお役に立てるように努めて参所存です。

本年度の企画委員会事業として計画されております研修会については、以下の通りです。幼児教育界におきましては、新制度が始まり四年目を迎えるうとしている今日、保護者の就労状況の変化や教育・保育のニーズの多様化により、現在は幼稚園における二歳児

受入れの需要が高まっています。また、政府が考える「子育て安心プラン」の幼稚園における二歳児受入れ事業なども鑑み、昨年度に引き続き乳幼児保育研修会を実施して、園経営者や園長が知っておきたい二歳児の特性と運営上気を付ける点について学ぶ研修会を平成30年10月頃に行う予定です。

次に、近年都市部での保育士不足が叫ばれており、同時に都市部の幼児施設からの求人が本県の教員養成校にまで届くようになりつつあります。このような現状を踏まえて、園経営者及び園長が地元の人材を地元の教育・保育力として確保すべく、どのような発想に基づき何を実践していけば良いかをテーマに、それぞれの園環境作りや採用活動について学べる研修会を平成31年2月頃に実施する予定です。

最後に、日進月歩変化していく幼児教育政策へ、先人が生み残した私立幼稚園の潜在価値を守りつつ、時代に合った私立幼稚園としての社会的役割について少しでも委員会事業として提示していければ幸いと考えています。今期の8人のメンバーで、皆様の期待に応えられるように邁進して参りますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

研修委員会

委員長

相田早苗



改訂された幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が、今年度より施行されました。『環境を通して行う教育』を引き続き基本とすることに加え、これからの時代に必要と

される『資質』『能力』の三つの柱が学校教育全体の柱として示されました。カリキュラム・マネジメントの重要性が高まり、教員一人ひとりの資質向上が更に求められてきている中、幼児教育の充実を図るために、基本研修や専門研修、特別研修等を企画、実施していきたいと思っています。

乳児期から幼児期への発達の連続性をふまえた保育について考える『乳幼児研修会』を今期も実施すると共に、『新規プロジェクト』としての『三歳未満児の発達と特性についての研究プロジェクト』を企画し、さらに長期的な視野を持った保育について研究を進めていきます。もうひとつの新規プロジェクトは『園の組織力・教育力を活性化させるためのミドルリーダー育成プロジェクト』です。園が様々な役割を求められるようになった今、園の教育運営の要となるミドルリーダーの養成も重要な課題であり、その役割や育成について考えていきます。質の高い教育・保育実践のためのカリキュラム・マネジメントのひとつとしての『保育の質の向上を目指した公開保育研修会』については、今期も継続して実施します。

また、既にご承知のように、研修ハンドブックとスタンプが改訂されました。保育者としての資質向上研修俯瞰図をもとに、研修履歴を計画的に蓄積していくことができるよう、研修委員会としても、研修内容を精査、実施していけるよう取り組んでいきたいと思っています。

今期、新しいメンバー4名を迎えて、16名で研修委員会がスタートいたしました。教員の皆様の学び、幼児教育の質の向上に繋がるようよう研修委員一同で進めていきたいと思ひます。どうぞよろしく願ひいたします。

広報委員会・HP小委員会

委員長
杉山京子



平成30年度の広報委員会が11名の委員でスタートしました。理事長先生を始め三役の先生方の指導をいただき、幼児教育の重要性・私学の特性を広報していきたいと委員一同で考えております。

子ども・子育て支援制度が始まり、ますます教職員の確保が重要課題となってきました。人材確保に係る活動の企画の実施として、県内外の教員養成校との交流会開催を今年度も計画しております。情報交換などを通して、質の高い教員を確保するため、一層効果が上がるように企画していきたいと思っております。今年度は秋に開催することにより、再来年度の募集に向けて参考になるようにまとめていく考えです。

そして人材確保に向けたパンフレットでは生き生きと活動している先輩方の姿を掲載して、一緒に働いてみたいと思える工夫・私学への関心が高まるパンフレットも引き続き作成し、幼児教育の意義や協会の目的、存在意義などを広報すると共に、教職員をはじめ関係機関の皆様方に情報発信していきたいと思っております。

HP小委員会では好評をいただいております「園長先生のメッセージリレー」の執筆を引き続きご依頼させていただきます。またインターネットを利用する保護者や学生等に振興協会や各園の情報をわかりやすく発信し、ホームページと共に幼稚園ナビの活用も進めていく計画です。

また今年度も「静私幼だより」では、

数々の研修・教職員の声・保護者の声・保育の参考となる特集記事など、様々な角度から取り組んでいきます。紙面の最後を飾る「ナイスショット」には皆様からの応募を受け付けておりますので、地域選出の委員に声を掛けていただき、子どもたちの日々の園生活をお寄せください。どうぞよろしくお願いたします。

経営委員会・IT小委員会

委員長
武藤啓史



子ども・子育て支援新制度の施行から四年目に入り、従来の私立幼稚園と新制度に移行した認定こども園を比べると、益々こども園化が進んでいるの今かと思えます。制度上は私学助成園と市町村からの給付園という違いはございますが、保育機能の多少はさておき、私学助成園も認定こども園も「幼児教育を担う教育機関」であることに何の違いも無いと思えます。子どもたちにとってより良い教育と保育を提供していくべく各園が更に教育に力を注いでいけるように、その経営基盤をしっかりと固めていかなくてはならないと思えます。経営委員会として、少子化や人材確保をはじめとする厳しい社会的背景の中で、各園が当面にわたり健全経営を維持していくためには何が必要かを委員会で模索検討し、情報を発信していきたいと考えます。

委員会の事業としては、質・量をふくめた人的、物的な環境整備の重要性を鑑みつつ、そのために必要な経営情報提供の充実、事務処理の適正化・効率化促進、事務職員等への研修等を行っていききたいと思えます。トップマネ

ジメントを担う者として必要な情報やスキルを得るために、理事長・設置者、園長等研修会を企画開催いたします。また後継者を対象として次世代リーダー研修会を計画し、将来の幼児教育を力強く担っていくための有益な情報やスキルを獲得していただきながら、参加者が相互に交流を深め、より情報交換が図られることを期待しています。

経営委員会と並行して、IT小委員会としては、幼稚園経営におけるICT化をより進めていくために、教職員、園長向けのセミナーを年三回開催する予定です。個人情報や肖像権の保護の観点からも、セキュリティ管理も同時に問題提起していきたく思います。

私自身委員長として二期目を迎えましたが、浅学にて力及ばずながら、委員会諸先生方のお知恵とご指導をいただきながら精進して参りたく思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

地域向上委員会・園内安全管理小委員会

委員長
島津寿一



今年度より地域向上委員会を担当させていただくこととなりました。非才、経験不足の身ではございますが、委員各位、会員の皆様にお力添えいただき、努めてまいりたいと思っております。

今年度の主な事業内容をご紹介しますので、よろしくお願いいたします。

●子育て家庭支援の場やシステムの企画と実施。

昨年度、県内全体で、約4万7千人が参加した子育てフェア、約3千人が参加した子育て相談・情報提供事業へ引き続き支援を行います。

●子育て支援カウンセラー事業

各地区に子育て支援カウンセラーを配置し、保護者の悩みの解消や発達相談ができるよう、子育て相談を充実させていきます。また教職員のコンサルテーションやカウンセリングを行い、子どもの健やかな成長を支えられるよう運営していきます。

（前年利用実績コンサルテーション約1300件、カウンセリング約400件）
また担当者会議を開催し、利用状況等を調査・検討し、効率的な運営を推進していきます。

●園の安全管理に寄与する活動の企画と実施

私立幼稚園の安全管理・危機管理の推進のため、園内安全管理小委員会を設置し、会員への研修、情報提供を行います。

また安全管理に関する研修事業や備品整備事業について、各地区へ運営費助成を行います。

●地区間の情報交換や事業推進に寄与する活動の展開

委員会では地区間の情報交換を行うとともに、県内11地区に対して私立幼稚園の振興に関する地区活動の推進を図るための費用を助成してまいります。

以上が主な今年度の事業内容ですが、特に各地区の子育てフェア、子育て相談・情報提供事業は、企画運営、スタッフの配置等ご苦労も多いことと思えます。事業をよりよく充実させるためには、会員の皆様のご協力が必要不可欠と考えますので、ご理解とご支援を重ねてお願いいたします。

また11月に開催される私学振興大会ですが、今年度は私立幼稚園振興協会が担当となっております。他団体からの協力を得ながら進めてまいります。お手伝いをお願いすることもあろうかと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

園外保育と安全管理

◆◆◆ 出かける前に ◆◆◆



小さい頃から始める

＜幼児期に自然の中で過ごす機会＞

今私たちが住む地球環境が直面している深刻な難題について学ぶには、幼児では早すぎると考えられることが多いのではないだろうか。しかし多くの研究や論文が示しつつあるのは早期に周囲の環境に対して多様なものの見方を導入し、体系的に発展させるべきということだ。幼児期は自然（自然に対する教育）の中で感性を養うことと、大人（親）の愛情につつまれ、子ども同士がもまれて育つこと（人間に対する教育）が主な活動です。それが豊かな「感性」と人間愛や信頼感を育てることにつながります。この原点づくりを様々な保育場面で私たちがサポートしていくことを決して忘れてはなりません。結果、その後の学齢期・成人後と段階を経て、将来にわたって

環境を守り、環境問題や人間をとりまく諸問題を解決するための行動をとることにつながっていくのです。

行動するためには

＜遊びのワクワクと危険のドキドキのバランス＞

保育の様々な場面では、子どもたちが楽しみたい遊びと保育者が心配する危険の二者がいつもシーソーの両端に乗っているかのように同居しています。園外に出るの活動場面では、その両者の思いはさらに大きくなるのが当然考えられます。しかし『事故は必ず起きる』という現実があります。予測できる事故と予測できない事故という二種類ありますが、人為的・組織的・環境的といった要因を知ることによって予測できる事故の発生を軽減させることができることを知ってほしいので

す。

具体的には事故の発生を少なくするために、日常的な場面こそが大切です。子どもたちの荷物の置き方・活動にあった服装・身だしなみ・言葉づかい・表情・立ち居振る舞いなどを観察して、複数の視点や他者の目によってチェック・観察し合うことが重要になってきます。それが、事故を事件に発展させないための基本となります。もちろん保育者同士の接し方や様子・雰囲気子どもたちに伝わり影響します。保育のあらゆる判断に合意形成がなされていることが必要であり、異常事態が発生した場合にも安全な保育環境を維持できるようにすることが大切です。

また、園外保育や自然体験を実施するときは、事故防止やヒヤリハット抑制のために、企画書の作成・危険予知訓練を含めた打ち合せ・事前の現地の



ひゅうが たかつく
日向 崇紹

自然案内人
子どものための
自然体験アドバイザー



下見・当日の打ち合せと下見・実施後の振り返りといった一連の手順が大切です。さらに園庭で発生するような日常的なヒヤリハット報告まで積み上がったいくと、結果的には園や組織の貴重な財産になっていくことにもなるでしょう。その他事務的な面では、速やかな判断ができる組織内の連絡体制づくり・救急用品のリストや在庫の確

認・事故記録書の整備等ありますが、年度ごと更新させる労力まで考えると一部の保育者だけで安全管理について学び実行することは簡単ではありません。しかし余りに安全を重視し過ぎると活動の質が下がり、シーソーの重みが偏ることでも園外保育に必要なバランスは崩れることになりま



す。歳までは難しく、いつしか五歳以下の幼児期の記憶の大半も思い出せなくなる幼児期健忘というものがあります。一方で、言語の習得や記憶は積み重ねをされているので、場面を共有した保育者の発した言葉は子どもたちの

現地で学ぶ・実物で学ぶ

多くの保育者がより身近に感じている自然とは、勤務している園庭で見られる様子や教室内に入ってくる生き物だと、研修先で現場の保育者とお話している中で私は感じています。もちろん非日常に思う年間に数回だけ出向くような場所で感じられる期待感のワクワクや緊張感のドキドキによって思い出に残ることもありますし、私自身もその期待感に押されて新鮮な気持ちで歩くことができることが多いのは事実です。しかし、保育者と子どもたちとの日々継続した繰り返しのできる共通体験の場合は、やはり身近な場面なのではないかと思っています。

また、個人差はありますが幼児期の「いつ」「どこ」「何をしたか」というエピソード的な記憶を保つのは三〜四

歳までは難しく、いつしか五歳以下の幼児期の記憶の大半も思い出せなくなる幼児期健忘というものがあります。一方で、言語の習得や記憶は積み重ねをされているので、場面を共有した保育者の発した言葉は子どもたちの中で紡がれていくのではないかと思います。よって保育者

ではないかと思っています。よって保育者の子どもや自然に向き合っている姿勢やかかわり方が子どもたちに影響すると考えられます。例えば、教室内に入ってきたハチを見たときの保育者の発した言葉が感情的や否定的な面ばかりではなく、冷静さや知的な要素が入っていてもいいのではないかと思います。そのためには、保育者自身が現地を歩き実物を見て触って遊びながら学べる体験を通じた研修の必要性があると考えます。

自然に対する視点や知識が育まれないと、翌日からの保育現場に変化は訪れにくいでしょう。保育者の園外保育に関する草花遊びの発想や危険な動物や虫と植物の理解と対処の方法といった自然と安全管理の視点と知識がより育つほど、日々の子どもたちと共有する感動体験が、より貴重であり良質なものにできるのです。



すべての人に自然にふれるという終わりのない喜びを感じる機会があり、子どもたちの人生にとって何時その喜びの初体験が訪れるのか誰も知ることにはできません。知識を持ちあらゆる準備をしても、私たち大人も子どもたち

自己紹介 日向崇紹

自然案内人・子どものための自然体験アドバイザー

常葉大学教育学部卒業後、会社員経験後に同大学に復学し自然環境復元について学ぶ。日本環境教育学会員、静岡市環境学習指導員である。また野外に特化した海外の救命法や小児専門の救急救命法、日本山岳ガイドなどの資格取得の経験がある。過去、環境保全で話題となった富士山静岡空港の建設当時の現場内ビジターセンターの解説員、2005年愛知県開催の万国博覧会「森の自然学校」のチーフ自然案内人や、近年では環境教育NPO法人の理事・職員として行政・企業への事業提案や地域へ新しい形の子どもたちの学習の場を企画提供してきた。現在は児童福祉施設の施設長として勤める傍ら、講師として小中学校の総合学習（環境）の支援、幼稚園・保育園児のための自然遊び・生き物探しや、保育者向けに園外活動の指導・危険な動植物・ケガの対処等の安全講座を開催している。

今、改めて 砂場を捉え直す

砂場における人とのかかわりの育ち



武蔵野大学
教育学部准教授

箕輪 潤子

専門は幼児教育学、保育学。
著書に『遊びがもっと魅力的になる3・4・5歳児の言葉がけ《砂場編》若手保育者の指導力アップ』（明治図書）等。
現在、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構において研究委員として、砂場における幼児の育ちをテーマに研究を実施している。

みなさんの園では、いまどのような遊びが砂場で繰り広げられているでしょうか？そこの子どもたち同士の様子ややりとりはどのように繰り広げられていますか？今回は、砂場における「人とのかわり」の年齢ごとの特徴についてお話をしたいと思います。

友達と一緒にいるのがうれしい、友達をまねてやってみる三歳児

三歳児の子どもたちは、砂場という空間の中に一緒にいて、それぞれがしたいことをしながら過ごしているように見えます。

『一緒にいるだけなんです・・・』保育者と三人の子どもが一つの穴の周りで遊んでいました。けいたくんはジョウロに水を汲んできて穴に入れていきます。ゆかりちゃんは穴に水が入ったことでもぐずれた砂を穴の中からシャベルですくってバケツにいれます。つぐみちゃんはバケツの中に入った砂を触りながら保育者に



「もちもちだよ。ねえ、もちもち。」と言っていました。

一見、役割分担が行われているようにも見えますが、実際のところは、けいたくんは水を運んで穴に入れるのが楽しい、ゆかりちゃんは水が入った穴から砂が崩れる様子をみたり砂をすくうのが楽しい、つぐみちゃんは濡れた砂を触るのが楽しいという、三人それぞれが「穴」とのかかわりをそれぞれに楽しんでいた結果、それがぐるぐると循環して遊びが展開していたのです。

『いや・・・あれ？おもしろそう』水がたつぷりの砂場で、かいたくんは電車のおもちゃを走らせていました。かいたくんがゆつくりと電車を動かしていった先には、どろどろの砂を掴んで山にしているゆうやくんがいました。ゆうやくんはかいたくんの電車が近づいてくると、電車の上にとどろどろの砂をのせました。かいたくんはそれをみて「いやー！」と言いました。でも次の瞬間、かいたくんは自分でどろどろの砂を

掴んで電車に載せ始めました。

友達がしていることがなんだかおもしろそうと、真似をして取り入れていく姿もみられます。他の子どもや保育者の動きを見たり・まねたりするなかで、道具の使い方や砂の扱い方を知っていたり、作りたいもののイメージが膨らんでいくようです。

友達と同じことをするのが楽しい、目的をもつことでつながる四歳児

四歳児の子どもたちは、他の子どもと「穴をほろうよ」などやりたいことを共有し、そのやりたいことに向かって力をあわせる姿がみられるようになります。

『乗るのたのしい！乗るのはじゅんばんね。』大きなフライパンに砂をつめようと、子どもたちはシャベルで砂を入れていました。フライパンに砂がいっぱいになったころ、偶然、底の空いた大きなバケツが転がっ





かし、だいちくんは、桶が砂で埋まってしまったと思ったのでしょう。桶を砂から出して並べ直そうとしました。すると、やまとくんが「うめるんだから!」と強めに言います。それでもしばらくだいちくんは、なぜ桶を埋めるかわからない様子でした。し

てきて、あいちゃん「ここに砂をいれよう」と、大きなシャベルをもってきて砂を詰め始めました。砂がバケツに溜まってくると、あいちゃんがバケツの中の砂に乗ってぴよぴよしはじめました。すると、他の子どもも「わたしものりたい!」「のりたい」と言います。「じゅんばんね」ということで、子どもたちはひとりずつ並んで順番にバケツの中の砂の上に乗って、あいちゃんと同じように砂の上に乗ってぴよぴよ飛び跳ねます。

フライパンやバケツに砂を満たすという目的に向かって、子どもたちはみんなで一緒に砂を入れたり、砂を固めたりとみんな同じことをして楽しんでいるようです。砂はフライパンやバケツにいれるとどれだけ入れたか、目的までのプロセスが見えやすいので一緒に頑張りやすいのかもしれません。また、裸足で砂に乗って固めるときに少し体が沈むおもしろさを、身体的に一緒に感じていくことで、楽しさがつながっているのではないかと思います。

『本当は、並べたいんだけど』 やまとくん、だいちくん、みずきくんは、水を流すために桶を斜めにつな

目的に向かつて場所や役割を分担する五歳児

同じ目的を共有した子ども同士が同じ道具を持ち、同じ動きをすることで一緒に遊んでいる仲間だという一体感を持つとどうなる様子や、「これどうする?」「ここ掘っていい?」などと確認しあいながら遊んでいる様子もよくみられます。また、友達がしていること、したいことを砂の変化から読み取ろうとしたり、友達に合わせながら自分の役割を考えていくという姿もみられるようになるようです。

五歳児になると、友達と目的を持ち、山を作る人と穴を掘る子どもに分かれる、ケーキを作るときはチョコレートやクリームを作る子どもと、材料を型につめたり飾り付けをする子どもとに分かれるなど、作業する場所や内容を明確に分担する様子がみられてきます。

『大きな山を作っているうちに』『山を作ろう』と言いながらもゆきくん、かずくん、しゅんとくんが鉄製のシャベルを取りにいきます。最初のうちは、全員が砂を掘り山に乗せたり固めたりしていましたが、山が大きくなってくるにつれて、砂が地面から掘られて穴ができてきました。そのうち、ともゆきくんができた穴から砂を掘り出して山に乗せ、それをしゅんとくんが固めるという役割に自然に分かれはじめました。また、かずくんは、固める役割をしているしゅんとくんがシャベルを小さなものに持ち替え、山の周囲を回りながらぺたぺたと細かく固めている様子を見て、「しろすなとってくる」と山を固めるための砂を取り

にきました。その後、山と穴が大きくなっていくにつれて、かずくんとしゅんとくんが山を大きくし、ともゆきくんが穴を広げていくという分担に変わっていききました。

山を作っている時に他の子どもが砂を乗せていれば固める役割を引き受けるなど、仲間の動きや砂の動きから自分がどのような役割を果たせばよいのかを判断しながら遊ぶようになっていきます。仲間同士では、自分の役割を遂行しているときは遊びに関連した会話はそう多くないのですが、「ここに穴掘るよ!」「これどうする?」など、共有すべきことについての確認を仲間と取ろうとしようとする姿がみられます。

年齢ごとに、砂場遊びの中で子ども同士のかかわりをみてきました。子どもの発達やかかわりの積み重ねによって、関係性の広がりや深まりが起きてくるのですが、砂場という場所は、他の場所から区切られていて安心して過ごせることが、三歳児にとっては仲間同士で一緒にゆったりと遊ぶことに向いているのではないかと思います。また、四・五歳児にとっては、砂の変化によって自分たちがしてきた過程を把握したり、仲間がしようとしていることの見通しをもったりしやすいでしょう。友達や仲間との関わりは、言葉での直接的な関わりだけではなく、場の状況を読みながらどのようにな動いたら良いかを考えたりすることでも育まれていくと考えられると、砂場は子どもたち同士の多様なコミュニケーションを支えてくれる場だと言えるでしょう。





私が大切にしている二つのこと

しらゆり幼稚園 中瀬 古來佳

私が保育園に通っていた頃、年少時の担任の先生がとても優しく綺麗で大好きだったことから、小学生の頃から幼稚園教諭又は保育士になろうと決めていました。幼い頃からの夢であった幼稚園教諭になり、年中クラス担任を任されてからのこの一か月半はとても早かったように感じます。

毎朝、「らいかせんせい、おはようございます」という子どもたちの元気な声から一日がスタートし、最後は笑顔で「せんせい、またあしたね」と言ってお別れを告げ、とても幸せな日々を送っています。

なりたい職につき子どもたちと過ごす中で、毎日色々な発見や勉強になることがたくさんあります。様々な廃材を活用してワニやカメラ等を作ったり遊びを広げている子どもたちの姿を見ると、年少時の先生が与えた経験が身についているのだなと感じます。私も大学で学んできたことを保育に活かしたいと思っているのですが、思い描いていた保育と実際は異なってしまうことに戸惑っています。しかし毎日自宅に帰ってから『明日みんなを何をしよう、こんなことはどうだろう』と考えるようになり、保育者としての生活が変わっていききました。子どもの



思いを全部感じ取ることは難しいと思いますが、少しずつでも理解ができるようにたくさん子どもと共感体験をし、喜怒哀楽を共有していきたいと思っています。

私は子どもたちと生活する中で2つのことを大切にしたいと思っています。一つ目は【叱る時はしっかりと叱るが、必ず笑顔で帰すようにする】です。保育の中で叱った子どもが泣いてしまうことはありますが、一日の最後は「楽しかった」と笑顔で帰り、翌朝も笑顔で登園できるようにしようと思っています。

二つ目は【子どもの気付き・発見を大切に豊かな感性を育てる】です。絵画あそびでも製作あそびでも、子どもが自ら工夫して「こう

したい!」「こうしたらもっと良くなる」と発案・発言していけるようになるれば、今後年長に進級しても、その次の小学校に進学しても、自分らしさを発揮し、リーダーとして活躍できると思います。

この二つのことをもとにして、これからの保育をより良い方向に繋げていきたいと思い、子どもと共に私も教諭として成長していきたいと思っています。

幼稚園教諭になって

富塚幼稚園 鈴木 小百合

「小百合先生おはよう!」と子どもたちの元気いっぱいな挨拶で始まる一日。幼いころから憧れだった幼稚園の先生になれた喜びを感じる瞬間です。早いもので幼稚園教諭になり、二か月が経とうとしています。私は元氣いっぱいな年少児28名のクラス担任をしています。

最近、私が幼稚園に通っていた頃の連絡帳を読み返しました。年少の時、



毎朝お母さんから離れるのが嫌で泣いていたことを知りました。幼稚園には楽しい思い出ばかりで大好きな先生に憧れていたこの職業に就きたいと思っていたので、泣いていた時期があったことに驚きました。しかし、泣いている私に寄り添い、向き合ってくれた先生がいてくれたから

こそ今の私があると思いました。私は、幼稚園の先生になるという夢を叶えることができましたが、新たに子どもたちに夢を与えられる先生になりたいと思いました。

最初の一か月は自分自身に余裕がなく、まだ園生活の流れや教師としての瞬時の判断ができず毎日必死でした。余裕のなさから子どもたちの

話をじっくり聞き、受け止めることもあまりできず悩んだり、トラブルが起きた時この子にとって今の対応は正しかったのか、と迷うこともありましたが、しかし、そんな頼りない私でも、子どもたちにとっては先生であることに変わりなくいつでも「小百合先生」と親しみをもって接してくれました。今はまだ経験が浅く分からないことだらけですが、今の私にもできることはあります。今

できることは悩んでいるよりも、子どもたちと過ごす時間は、自分自身が笑顔で過ごし楽しむことをモットーにしています。

元氣いっぱいではじける笑顔の子どもたちのおかげで毎日楽しく過ごしています。日々成長していく子どもの姿を一番近くで見ることができて、贅沢でやりがいがあると感じました。子どもたちにとって幼稚園という場所が楽しくて、安心できる心の拠り所になるように精一杯努めて行きたいです。また、様々な経験を通して自分自身が「先生」として成長できるように、ひたむきに取り組んでいきたいです。



保育の窓 コミュニティ

経験から得たもの

上野幼稚園

望月千帆

幼稚園教諭になって四年目、社会人としても四年目になりました。新米教師だった私は、年少クラスを受け持たせてもらいました。右も左も分らない状態でしたが、憧れていた幼稚園の先生になれたことが嬉しくて、期待で胸が高まっていました。しかし、実際に子どもたちの前に立つと、想像していたものとは遥かに違い、思い通りにいかないことばかりでした。毎日反省し、悩み、こんなにクラスをまとめられないなんて自分は幼稚園教諭に向いていないのではなかったかと思うほどでした。その様な時救ってくれたのは先輩方や友達や家族でした。先輩方から「手遊びを増やして子どもたちの気持ちを惹きつけてから話し出したら、きつともっと聞いてくれるんじゃないかな」と助言を頂きました。友達からは「いつでも私たちは味方だよ」と心温まる言葉をかけてもらい、家族からは「あなたが一生懸命取り組んでいれば、きつともちもいつかその声に応える」と励ましの言葉を貰いました。私は改めて多くの人たちに支えられていることや自分に足りない部分に気づくことが出来ました。そして、私は子どもたちの目の高さに合わせて話すことや子ども一人ひとりと向き合い、その子の個性を把握していかうと決めました。



すると、子どもたちは少しづつまとまりをもつようになり、話も聞けるようになりました。またその中で、子どもたちは、純粹でまっすぐだと改めて知り、これから子どもたちの心を大事にしていかなければいけないと強く感じました。大きな一年になりました。

勤務して四年

目、私は日々勉強し実践することで、子どもたちと目の高さを合わせることの大切さを知り、子どもが困っている時にすぐに対応することができるようになりました。これからは子どもたちの個性を生かしながら一緒に成長していかうと思っています。

「ぐるんぱ」は私自身

青島こども園

川内春奈

私は「ぐるんぱのようちえん」という絵本が大好きです。この絵本は私の人生みたいだからです。

私は今年で保育教諭六年目です。高校生の頃は、タカラジェンヌに憧れ、宝塚に入りたくて、一生懸命レッスンしたり勉強したりしました。でも、受験は失敗しました。それで、なんとなく保育の短大へ進学しました。そして、なんとなく大学の講義を受けていました。しかし、実習に行った時に大きく心が動きました。先生方の明るい笑顔、生き生きとした表情の子どもたち。自分も幼稚園の頃、楽しい思い出がたくさんありましたが、こうした先生方のおかげだったんだと改めて思いました。また、幼稚園の活動にはねらいがあって、遊びながら自然に学んでいたんだと驚き、感動しました。そして、幼稚園の先生になりたいとはっきり強く思いました。



念願がなつて園に勤めることができました。一年目はクラスをまとめることや個々の対応に悩み、よく泣いていました。先輩の先生方にたくさん助けってもらい教えてもらいました。二年目はメリハリのある保育ができず悩みました。声のボリュームや声色を変えて話すこと、時間をきちんと決めること、自分の中でボーダーラインを決めること、そして緩む時間もある必要であること。メリハリとは何か徐々に分かってくいき、メリハリのある保育ができるようになりました。三年目からは、「声掛け」「子どもへの話し方」を特に学びました。先生の言葉は魔法みたいで、声掛け一つで子どもたちのやる気がパワーアップしたり、真剣に聞いたり、盛り上がったたりします。いろいろな先生を見て、いいところを真似して「声掛け」や「子どもへの話し方」のレパートリーを増やしていききました。それから、だんだん「保育で大切なことと思うこと」などの保育観も持つことができるようになりました。

今、振り返ってみて、今までの人生の中で無駄だったことは一つもないなと思います。高校や短大で作ったものもとても役立っているし、唯一続けてきたピアノも、悩んだ経験も、うまくいった経験も、感動も、失敗も。結果はダメだったけど、宝塚を目指していた経験も。「ぐるんぱのようちえん」のように大変だったたり上手いかなつたりした経験もいつか自分のためになると思います。子どもたちにもそんなことを少しでも知ってもらえるといいです。私も挑戦することを忘れず、今まで教えてもらったことや経験を全部出し切つて、これから子どもと本気で向き合っていきたいです。



認定こども園訪問



今回の認定こども園訪問は、静岡市葵区にある「羽鳥るり幼稚園（長谷川弘道園長）」さんです。山あり川ありと自然豊かな環境に囲まれ、さわやかな風が吹く中、元氣いっぱいの子どもたちがお出迎えをしてくれました。

◎こども園に向けて

旧園舎を全面的に建て替え、今年の四月より認定こども園として新たにスタートしました。こども園への移行については平成28年より計画を立て、二か年計画で準備されてこられたそうです。在園児保護者への説明については一年半前に行い、保育料・上乗せ徴収料・自園給食などについて、保護者への理解を深める努力をされてきました。また静岡市の特例で在園児に関しては、幼稚園時代の保育料を上回る料金については市が補填し保護者へ補助してくれる制度もあり、こども園移行への一助となったようです。

◎苦労された点について

旧園舎から新園舎へと全面建て替えということで、元の園庭に新園舎を建設し、園庭が使用できなくなってしまうしました。その代替として、園の横に流れる川の土手にある公園や姉妹園のるり幼稚園の園庭を利用しました。姉妹園までバスで行ったそうですが、これが意外と子どもたちに好評だったようです。

また園舎が新しくなり、こども園となるということで、さらに全面建て替えの機会なので、より良くしたいとの想いからあれもこれもと欲が出て併せて工事するところが多くなってしまうと、語ってくれました。

職員の確保についても課題であり、職員数に合わせてこれから徐々に乳児の受け入れをしていきたいとのことでした。

園長先生が「子どもたちが新しい園舎に入って、見て『うわあ〜！』と言っても『わー！』とおっしゃっていたとおり、新園舎にはいろいろな工夫が施されています。広々とした廊下や各保育室がとても贅沢に広く使われており、また天井の高い保育室など、とてもゆとりとした空間となっています。また二階の図書コーナーは、ハリーポッターの書斎を思わせる子ども心をくすぐる楽しい場所となっています。二階にあるゴムチップの床の広々としたベランダには夏はプールを設置し水遊びを楽しむようです。

四方に緑豊かな山々そして小川や一級河川がいくつも流れる自然豊かな環境に包まれ、初夏の心地よい風が吹き抜ける、とても明るく広々とした新園舎。このような環境で過ごすことができる子どもたちや先生たちがとてもうらやましく思いました。



吉原聖母幼稚園母の会会長

大石典子

我が家には、年長になる一人娘がいます。

先日六歳の誕生日を迎え、誕生日プレゼントのひとつに『ミニトマトの苗木』を選びました。娘にとつてきつという経験になるだろうと、ホームセンターでたくさん苗木の中から一本を時間をかけて一緒に選び、トマト色の娘サイズのじょうろとプランターをプレゼントしました。娘と約束したのは「自分で考えてミニトマトのお世話をすること」です。

こうしてスタートした、我が家初の家庭菜園。この「野菜を育てる」ということから日々娘が学ぶことの多いことに、とてもびつくりしています。

まず、毎日の水やりと祖母から教わったわき芽かきをするんだという責任感が育まれています。幼稚園から帰ると荷物の片づけも早々に庭に様子を見に行く毎日です。天候を一生懸命考えながら、水やりの量も考えています。

そして、花が咲く様子、実がつく様子、ぐんぐん実が大きくなる様子をじっくり観察する眼が育っています。祖父母の家庭菜園にも以前より興味がわいたようで、じっくり観察しています。共通の趣味ができた祖父母とは野菜の育て方の会話がつかまません。



また、栽培するうえで感じたたくさん自然に対する「なぜだろう?」どうしてだろう?」が次から次へ娘から溢れ出してくるようになりました。「どうして雨は降るんだろう?」「なぜ空は青いんだろう?」「どうして鳥は実が美味いんだろう?」「どうして鳥は実が美味いんだろう?」娘が感じる素朴な疑問は意外と大人でも答えるのに難しく、私自身も娘と一緒に調べながらなるほどね!」に疑問を知識に変換していく日々を過ごしています。

偶然、一週間違いで幼稚園でもクラスごとにミニトマトの苗を植えたそうで、担任の先生とどちらが先に実が赤くなるのか育てて競争をしているようです。娘の目標は、「二粒ミニトマトが収穫できたらお弁当にいれて、当にいれて、先生に粒おすそ分けすること」です。とても張り切つてその日を楽しみにしています。

頑張つてミニトマトを育てても、枯れてしまつたり、上手に実らなかつたりすることもあるかと思いますが、それも貴重な体験です。野菜も一つの生命。責任を持つて育て、収穫をし、私たちは命をいただいているんだということに気づいてくれたらと思います。ミニトマトの成長と共に、娘の感性も豊かに育つてくれることを楽しみにしています。

焼津豊田幼稚園PTA会長

長谷川浩二

PTA活動に携わるようになって三年目の年がスタートしました。三年前、長男の入園時に園からの配布物の中に、「お父さん役員募集」というPTAからの手紙があり目に留まりました。当時、長女が二歳と手がかる時期だったこと、仕事の関係で長男と接する時間が少なかったこともあつて、思い切つて応募することにしました。参加した行事すべてが初めてのことばかりで、何をすれば良いのかわからず戸惑いも多々ありました。でも、総務役員の方々、お父さん役員の方々と協力してやり遂げたという達成感、また園のこ



たちの姿に感動することも多いよ」という言葉に、二年目からは総務役員として活動することを決めました。一年目に参加できなかった葛の細道へのがんばりハイイク。自然の中を子どもたちと励みながら歩き、お昼はお母さんの愛情たっぷりのおにぎり!!二段と美味しく感じました。

二年目は多くの行事に参加することができたことで楽しさや面白さも感じる事ができました。三月には何と卒園式の祝辞を述べるという大役を引き受けることになり、口では言い表せないほど緊張したことを昨日のこのように覚えていてます。我が子の卒園ではありませんが、幼稚園最後の日の子どもたちの凛々しい姿に感慨深いものがありました。

そして今年度は長女の入園、長男は年長になり卒園の年となりました。我が子の

の記念すべき年に会長職を務められることを嬉しく思います。まだ不慣れなことばかりですが、子どもをまんやかに、幼稚園と保護者が協力し合つていくと共に、常に子どもたちが笑顔でいられるよう活動していきたいと思っています。

父親目線で語り合うことができたこと等：有意義な時間を過ごすことができました。仕事のこともあり、翌年はどうしようかと思ひ悩んでいた時、前任の会長から「大変そうに見えるかもしれないけれど、自分の子どもだけでなく多くの子どもたちと触れ合うことができて楽しいし、子ども

富士宮市内

◆静岡県富士山世界遺産センター

(富士宮市宮町5・12)



富士山は2013年6月26日カンボジアの首都プノンペンで開催されたユネスコ(国連教育科学文化機関)の世界遺産委員会で世界遺産に登録されました。それを機に、「富士山」信仰の対象と芸術の源泉」を後世に守り伝えていくための拠点施設として建設されました。当センターでは「永く守る、楽しく伝える、広く交わる、深く極める」の四つの柱を事業として、国内外の多くの方に富士山の歴史・文化・自然などを多角的に紹介しています。

施設に入るとコンパニオンの方が親切に案内してくれます。入館チケットのチエックを受けるとそこから螺旋状の坂をゆつくりと登っていくのですが、右側の壁に映し出される映像により、あたかも実際に富士登山をしているような感覚に包まれます。最上階の展望ホールからは霊峰富士の山の雄姿が目の前に展開され、それはもう素晴らしいの一言に尽きます。

場所は富士山本宮浅間大社のすぐ目の前にあり、入館時間は午前9時～午後4時30分
観覧料は大人300円 70才以上・障害者は無料

◆富士山本宮浅間大社

(富士宮市宮町1・1)

浅間大社は、富士山の噴火を鎮めた御神徳により崇敬を集め、富士山信仰の広まりと共に全国に祀られた



1300余の浅間神社の総本宮と称されるようになりました。

木華之佐久夜毘売命(このはのさくやひめのみこと)が主祭神として祀られています。木華之佐久夜毘売命は、大山祇神の御息女にして大変美しく、天孫瓊々杵尊の皇后となられた御方です。家庭円満・安産・子安・水徳の神とされ、火難消除・安産・航海・漁業・農業・機織等の守護神として全国的な崇敬を集めています。木華という御神名から桜が御神木とされています。境内には500本もの桜樹が奉納されており、春には桜の名所として賑います。境内の東側に、富士山の神水の湧く池があり脇の水汲み場の水は飲むこともできます。

またすぐ近くに富士山噴火の火砕流が止まった最南端の岩も保存されていて見ることもできます。

◆富士宮焼きそばとルイビ豚の味 わえる店

(富士宮市宮町4・22)

浅間神社の駐車場の前の大通り渡ると、富士宮焼きそばとルイビ豚の味わえる店があります。店名は「フジボク」と言い、地元食材をPRする飲食店として、地元や観光客に愛される店を目指しています。おすすめのメニューは、ステーキをはじめ富士宮焼きそば、ルイビ豚の背脂から手作りしたラードと肉か



すを使用した焼きそばは、ここでしか食べられません。

営業時間は午前11時30分～午後10時(月・火は午後3時まで)

富士宮焼きそばとルイビ豚のステーキが同時に食べられる富士宮プレート1080円がお勧めです。

◆狩宿の下馬桜

(国指定特別天然記念物)

この地は「狩宿」といわれ、建久四年(1193年)



源頼朝が富士の巻狩りに際し陣屋を設けた所と伝えられています。「狩宿の下馬桜」は別名「駒止めの桜」と呼ばれ、頼朝が桜の枝に馬をつないだこと伝えられています。この桜は赤芽のシロヤマザクラで、日本五大桜の一つにもなっております。四月上旬に見事な花を咲かせますので一見の価値のある桜です。

◆藤の名所「日蓮正宗下之坊」

(富士宮市下条2021)

山号を「大日蓮華山」という日蓮正宗の寺院で、正応二年(1289年)に身延山を離山した日興上人により開山された寺であり、身延山から離れる時荷造り紐として縛ってきた藤ツルが芽を出してやがて花を咲かせるまで成長した藤の子孫が今の藤棚を形成している藤の木だそうです。毎年四月中旬から咲き始め五月の連休ごろまで



楽しむ藤の名所です。藤棚は総延長400mあり、花が咲き始めると辺りは藤の花の甘い香が漂って、富士山をバックに佇むお堂とのマッチングが素晴らしい所です。

◆桜の名所 日蓮正宗大石寺

(富士宮市上条2057)

「下之坊」を開山した日興上人によつて「下之坊」創建の翌年に建てられた寺です。境内地の面積は約54万坪あり、膨大な数の桜の木が植えられています。五重の塔の後方で駿河湾を一望できる丘の上にある墓苑は総面積3万3千坪ありその間に植えられた八重桜も見事なものです。三月下旬から四月上旬には、日本一の富士山と日本を代表する桜の花のハーモニーを楽しむに多くの人が訪れて日本有数の桜の名所となっています。

また境内にはおびただしい数の堂舎がありますが、中でも見事な総門と五重の塔は見逃せない建築物です。





不思議なこと

花粉は地球上に植物が生まれた太古の昔から飛んでいたはずで、花粉で子孫を残す植物と共に私たちは生きてきました。しかし近年、春先に天気予報で花粉情報も流れます。花粉が飛ぶのは自然の営みなのに、すっかり邪魔者扱いのマスクとメガネが目立ちます。緑を伐採し、コンクリートだらけで杉の木もなさそうな都会でも……植林はしたが手入れされないのが、子孫を残すため大量の花粉を飛ばすとも言われますが、20年前に天気予報に花粉情報があったでしょうか。どこか異常な感じがしますが、異常も三年続くと当り前になってしまうから不思議です。自然の営みは同じなのに……？

免疫機能

私たち人間は免疫機能を持っています、自分と自分でないものを識別し、自分でない病原菌や異物を排除したり抑制して自分を守っています。免疫機能は、いつの頃からか共に生きてきた花粉を、自分に害をなす異物として反応したのです。冷静に考えると、蕎麦・小麦・卵・牛乳等の昔からの飲食物にもアレルギーという拒絶反応を示す人もいます。免疫機能は、それらも自分に害をなす異物と判断して反応しているので

しょう。単純に考えれば、私の体はそれらで満腹なので「もういらない」という反応です。しかし「蕎麦や卵を毎日食べていないのに」と思うかもしれません。花粉やそれらの飲食物には共通するものが含まれています。その共通するもので満腹なので、「もういらない」と体が訴えているのです。

原因と言われるもの

アレルギー体質と言われますが、体質は先祖から受け継いだものと生を受けてからの食生活でつくられたものです。現代の食生活で次の三点を考えてみるべきと言われます。

◎蛋白質過多

生命は蛋白質でできています。花粉も蛋白質です。暖衣飽食と言われる豊かな食生活と快適な生活環境の中、私達は30～40年前から比べたらはるかに大量の蛋白質を摂取しています。蕎麦も小麦も蛋白質を含みます。肉・魚・卵・乳製品類も全て動物性蛋白質であり、毎日の生活で確実に食べています。昔は御馳走と言われたものが日常化しています。ケーキやクッキー類もバター・チーズ・卵を含みます。肉食動物が持つ犬歯は人間には四本しかありません。動物性蛋白質を含むもの

は、全食事量の約12%でよいとは教えていますが、それをほかに上回る量を食べています。蛋白質過多の体に、花粉を始めとする蛋白質がやつてくれば拒絶反応するのは当然です。生活を見直し食（悔）い改めなければ根本解決にならないのでは？

◎砂糖過多

砂糖はエネルギー源で必要なものです。果糖とブドウ糖に分解されて吸収されます。体力回復に医者はずドウ糖の点滴をします。しかし何でも過剰は害になります。研究者によれば終戦後10数年は一日平均5～6gだったのが今はその30倍以上で様々な形で摂取しているそうです。砂糖を分解するには、大脳の栄養であるビタミンB1・B2を消費し、体が酸性化するので中和のためにカルシウムを消費するそうです。カルシウムは歯や骨の栄養素であると同時に、脳の興奮・抑制のうち抑制の働きをするそうです。砂糖過多は、注意力散漫・意欲低下・興奮しやすい切れやすさを生み出すそうです。またミスト細胞と言われる中にヒスタミン（アレルギー原因物質）が増加し、周囲の細胞に浸透現象で広がるので、ムズムズしたり痒い痒いになり落ち着きもなくなるそうです。だから医者は抗ヒスタミン剤を

処方します。最近のお菓子類に、果糖ブドウ糖の表示が目につきます。砂糖の即吸収される強烈的な最終形です。食（悔）い改めを！

◎化学物質過多

前回も書きましたが、現在は食品に大量の食品添加物が使われています。化学調味料・保存料・着色や発色剤・PH調整剤・乳化剤・酸化防止剤・香料・甘味料・消泡剤・凝固剤・酸味料等々、それぞれが私たちの台所にはない日常生活で知らない化学薬品でできています。ソルビン酸・リン酸・亜硝酸等理科室の薬品庫なら目にする物ばかりです。全て人体にとっては異物です。免疫機能で今は何とか守られていますか？食品だけでなく石鹸・洗剤・歯みがきや衣類にも漂白剤・芳香剤・脱臭剤等の石油化学が生み出した化学物質が使われています。自然界や人体には初めて経験する異物です。分解されずに残れば環境汚染になり、人体は自分を守るため免疫機能がフル活動する必要があります。やがてわずかな異物にも過敏に反応するようになり、自分を守るべき免疫機能がアレルギーと言う自分を苦しめる存在になります。自分の生活環境・食生活を見直すべきです。昔から医食同源と言います。



親子で力を合わせて戦うぞ!!



お姫様みたいでしょ♡



プールが始まった!! やったー!!



おちゃつみましたよ!



スイカわりをやったよ。あまくてすご〜くおいしい!!



雨上がりのどろんご遊び



お気に入り!! キレイな色に染まったよ!



大きなじゃがいも掘ったぞ〜



ぐみの実、た〜くさん採れたよ!



おいしいカレーできるかな?

【編集後記】

「梅は寒苦を経て清香を発す」

過日お寺の梅の実を収穫しました。今年は鈴なりに実がなっていて60キロも収穫できました。梅の実の甘い香りを感じながら、1年後の梅酒の完成に期待を膨らませる今日この頃です。梅酒も年数を経るとまろやかになり旨味が増すことを思いながら、年月を重ねたくましく成長した園児た

ちの将来の姿を心から楽しみにしているところです。

今号からは『園外保育と安全管理』という新連載も始まり、182号から始まった『砂場』の連載と合わせ、現場の先生方の保育に役立つ内容が満載です。是非毎号楽しみにして頂き、隅から隅までじっくり読んでもらえれば嬉しいなと思います。

